参 考

2024 年度実施の民俗芸能

島文楽（一宮市）　　島文楽保存会

【概要】1867 年、葉栗郡大毛村（現、一宮市大毛）の野々垣仙右衛門等が現在の岐阜市芥見の渡辺常助から人形６０個余を金７両で買い受けました。しかし、大毛村の若者たちは夢中になり家業手伝いもしないことに親たちが立腹し、明治の初めに葉栗郡島村（現、一宮市島村）へ人形を譲りました。人形一式を譲り受けた島村在住の有志が、当時、三宅村（現、岐阜県岐南町）に逗留していた大阪文楽人形遣いに指導を受けたことが島文楽の始まりです。

北脇祭囃子（東海市）　　北脇祭囃子保存会

【概要】北脇祭囃子は船津神社大祭で行われます。秋に行われ、五穀豊穣の感謝として猩々（想像上の怪獣）を先頭に笛・太鼓を演奏し境内を練り歩き奉納を行っています。この神事が終わると、境内にて猩々と子ども達の「ふれあい」活動が始まります。猩々がバリン（竹を細かく切裂したもの）を持って子ども達を追いかけ、軽く叩きます。子ども達も猩々を叩くといったような行動にて祭を盛り上げます。猩々が子ども達の体を叩く理由としては、邪気を払い、福と徳を与えると言われています。

大獅子小獅子の舞（半田市）　　半田市成岩第四区獅子保存会

【概要】大獅子小獅子の舞は、成岩の氏神である成岩神社祭礼に奉納される神楽獅子で、「大獅子の舞」と「小獅子の舞」の２つの対象的な性格の舞で構成されており、ともに江戸時代中期には行われていた記録が残っています。「大獅子の舞」は春の五穀豊穣を祈願するおおらかで優雅な舞で、大獅子には神の使いである白鶏の冠を被った「ささらすりの童子」が寄り添います。「小獅子の舞」は、急テンポな曲に乗り、龍が地をのたうつ姿や雲を呼んで天に昇らんとする姿を演じます。

小原歌舞伎（豊田市）　　小原歌舞伎保存会

【概要】小原歌舞伎は江戸時代中期に神社へ奉納する地芝居として始まり、娯楽の少ない農村の楽しみのひとつとして、広く親しまれていました。江戸時代末期から明治初期にかけては農村舞台が相次いで建てられ、今でも数多くが保存されています。明治中期には万人講という一座が結成され、県内外で上演されていました。1955 年以降、神社での歌舞伎の上演は次々と途絶え、1960 年には小原歌舞伎も幕を下ろすことになりましたが、1973 年愛好会が発足し、1975 年に現在の保存会に改組しました。

ざい踊り（尾張旭市）　　尾張旭市ざい踊保存会

【概要】ざい踊りは、尾張旭市内で古くから行われてきた盆踊りの中の女踊りの１つで、他に「せんす踊り」「手踊り」などがあります。一尺五寸ほどの竹筒の片端に、長さ四寸の紅白の紙房をつけた「采」を両手に持って踊ることからこの名称となっています。ゆっくりとしたテンポの踊りで、１つ、２つ、３つ、・・・と「采」を打ち合わせ、数をとりながら進行します。節まわしは素朴なもので、最初に挨拶の口上が歌われ、次いで文楽の演し物「傾城阿波の鳴門」の物語が歌われます